

インディゴ農場へ

インディゴ農場へはジョードブル空港からムンバイ（1時間半）そして乗り継ぎチェンナイ空港まで1時間45分、乗り継ぎの待ち時間が1時間あるので、移動だけで1日かかりです。

ムンバイ空港で新しくできたインディゴ航空会社を知りました。
「Indigo of Happiness」のキャッチフレーズで白とインディゴカラーのユニフォームが印象的でした。チェンナイまではインディゴ航空で移動しました。

農場までは車で飛ばして4時間高温多湿地帯です。気温は42でした。10月～11月は雨期で、滞在した2日間とも朝はどしゃ降り雨が降りました。

ヘナもインディゴも風土気候に合った植物で自然そのままの育てかたでした。日本での自然農法のような感じです。肥料や農薬を使わないことはありません。雨が降らなくてもそのままです。そのため、ハーブの生命力が強いです。



そして天日干し、手作業が多いです。IPMでは、お客様へ新鮮なハーブをお届けしたいため、日本からオーダーを入れてから、グラインダーにかけパウダーにしてもらっています。

チェンナイはベンガル湾を望むインド4大都市の一つです。（デリー、ムンバイ、チェンナイ、コルカタ）言葉はタミル語、公用語はヒンズー語です。インド国内でも場所によっては言葉が通じませんので、英語のできる通訳が必要になります。準公用語が英語です。

チェンナイで広東という中華料理店に行きました。期待してたのですが、味はインディアでノーサンキュー。仕方なくチャーハンと焼きそばを追加し、何とか中華風の味でお腹を満たしました。ビールはぬるく、氷を入れて飲む始末。インド人は冷たい物を飲む習慣がありません。お客様にはまずコップ一杯の常温のお水を出します。それからあたたかい飲み物、主にチャイです。



道路事情はともてデンジャラス。スピード狂です。追い越しジャンジャン、イケイケドンドンです。牛も人もオートバイ、リキ車、車、共有です。オートバイは2～4人乗り当たり前。ローカル電車は切符を買えない人が飛び乗り、沢山の人がデッキからあふれんばかりに乗っています。時には落ちて亡くなる方もいるそうです。

デリーからの地下鉄は日本の支援もあり、とても整備されています。これからもますます良くなるそうです。観光地には外人目当てに不当な請求をするガイドやタクシードライバー（人力車バイク車）が多いので、最初に値段交渉を、ホテルはチップが必要です。



私は今まで外国旅行をすると必ず肌（特に顔）にアレルギー症状がでて嫌な思いをしてきました。ところが今回、悪条件の中でトラブルが起きなかったのはびっくりでした。5年間IPMのヘナを使い込んだ結果なのかなと思いました。とにかく一番嬉しかったことです。私の体はえらい・・・とっていたのも束の間、帰国してからお腹にきました。再印の度に免疫ができて、だんだん大丈夫になってゆくそうです。

<日本政府の動向>

来年1月11日の首都ベンガルールに日本政府が領事館を設置する。トヨタ自動車の進出とIPブームでデリーに次いで邦人数が多い都市。インドの日本在外公館としてはムンバイ、デリー、コルカタ、チェンナイに次ぐ5都市目で拠点数では米国（18都市）ブラジル（8都市）中国（7都市）ロシア、ドイツ、豪州に並ぶことになる。来年3月には新国際空港が完成し、日本の円借約款等による地下鉄建設も本格化する。所在外公館は日印関係をより強固にしたいという日本政府の意思表明であるようだ。参考資料：WEDGE 11月号

持って行かれると便利な物
日本食（レトルト等）箱ティッシュペーパー、容器入りウェットティッシュ、マスク
目薬、下り止め、蚊取線香、ヘナ（虫刺され用）マイペットボトル。